

令和4年度 施政方針

企画調整課 862-9937

はじめに

はい、はい。ちゅうがなびら。平成26年11月から市政を預かり、7年と2か月が経過しました。これまで「平和・子ども・未来 あなたと」の理念のもと、「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまちNAHA」の実現に向け、誠心誠意努めてまいりました。

令和4年度は、私の2期目の総仕上げの年です。強い気持ちと勇気、覚悟を持って、全力で市政運営に取り組む所存であります。本市は、輝かしい次の100年に向けて、力強く新たな一歩を踏み出しました。先達が100年にわたり築き、守ってきた那覇市の「風格」に、更に厚みと高みを加え、県都としての新たな礎を築いてまいります。市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1 新型コロナウイルス 対応



新型コロナウイルスが確認されてから2年が経ちました。今日に至るまで市民の皆様や事業者の皆様には、様々な負担やご苦労をおかけする中で、感染拡大防止にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

また、市民の命を守るため、日夜最前線で医療や看護にあたられている医療従事者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様のご尽力に敬意を表します。

私は、感染拡大防止に迅速かつ的確に対応するため、那覇市危機管理対策本部の先頭に立ち、「命を守る」「経済をつなぐ」「日常をつくる」という基本方針のもと、感染防止対策、積極的疫学調査、ワクチン接種、経済対策など、様々な施策を講じてまいりました。スピード感を持って進めてきたワクチン接種の効果もあり、市内の感染状況は、一時落ち着きを見せていたものの、昨年末から非常に感染力の強い新たな変異株への置き

換わりにより、想定を超えるスピードで感染が再拡大しております。医療体制や支援体制を維持するとともに、この第6波を食い止めるため、今月5日から始まりました一般向け3回目のワクチン接種や、3月から予定しています5歳から11歳までのワクチン接種につきましても、県や関係機関としっかりと連携し、万全を期して取り組んでまいります。

壬寅の今年は、「厳しい冬を越えて芽吹き始める」とされ、新型コロナウイルスの逆境に立ち向かい、困難を乗り越え歩き出すことにも重なります。厳しい状況が続きますが、市民の生命を守り、安心した日常生活を取り戻すため、引き続き、この難局に立ち向かってまいります。

市民の皆様には、ご自身や大切な方、地域社会を守るためにも、あらためて三密の回避及びマスクの着用、手洗いの徹底など、感染防止対策にご協力をお願い申し上げます。

2 公約の進捗



私が公約として掲げた「10の約束」は、184の施策のうち約95%、174の施策で着手又は達成となっております。

具体的には、子ども・子育て分野では、市長就任以来、待機児童問題を市政運営の1丁目1番地に位置付けて取り組んだ結果、平成28年度の559人をピークに確実に減少し、令和3年4月1日時点で37人と大幅に減少しております。

また、子育て世代の負担軽減を図るため、今年4月から通院に係ることも医療費助成の対象を、中学校卒業までに拡充し、窓口での支払いが要らない現物給付方式にて実施いたします。

経済・観光分野では、再整備中の第一牧志公設市場は、今年12月の完成を目指しております。併せて、商店街等が取り組むアーケード再整備事業等についても、継続して支援してまいります。

3 子どもの笑顔が輝くまちづくり



令和3年4月1日時点の保育所等の待機児童数は37人となり、「待機児童ゼロ」の実現がいよいよ見えてまいりました。待機児童ゼロの実現はゴールではなく、新たなスタートラインであると私は捉えております。

政府は、令和5年度に子どもや家庭への支援を一元的に担う「子ども家庭庁」を創設するとしております。

いつでも希望の園に入所できるなど、子育て世帯のニーズに細やかに対応できるよう、「待機児童ゼロのその先へ」取組を進めてまいります。また、ここ数年で顕在化してきたヤングケアラーの問題など、新たな課題にも真摯に向き合っていくかなければなりません。

私は、親の笑顔が子どもの笑顔をつくり、また、子どもが笑顔であれば、親も幸せになると信じております。これからの社会を創る子どもたちが輝き、生きる力を育み逞しく成長していけるよう、子ども子育て支援に全力を尽くしてまいります。

4 節目の年に平和を思う

沖繩は今年、多くの尊い命が失われた沖繩戦から77年を迎えます。戦争体験者が少なくなる中、戦禍の記憶を風化させてはなりません。

平和であるからこそ本市の発展があります。復帰50周年を迎えるにあたり、私はこの節目の年に平和で豊かな那覇の未来を願い続けた先達の功績を決して忘れてはならない、そう

戦後、長い間、本土から切り離された米軍統治下時代を経て、幾多の困難を乗り越えて本土復帰を果たしました。1972年5月15日、那覇市民会館で開かれた沖繩復帰記念式典において、復帰運動の先頭に立った屋良朝苗知事は「鉄石の厚い壁を乗り越え、けわしい山をよじ登り、茨の障害をふみ分けて遂に」と悲願をかみしめ、世界の恒久平和を誓いました。

決して忘れてはならない、そう思いを改めて強くし、これからも平和なまちづくりに努めてまいります。



5 地域経済の回復を目指して

新型コロナウイルスにより落ち込んだ地域経済は、那覇とまーるクーポン事業や那覇買エール商品券事業など、本市や県、国の施策により、賑わいが戻りつつ回復の兆しを見せ始めていた矢先、またしてもコロナの打撃を受けています。

再び感染拡大の厳しい状況に置かれた、地域事業者の皆様への支援を継続し、押し寄せるコロナの波からしっかりと事業者を守る必要があると考えております。令和3年度に実施した市内中小企業経営実態調査からニーズを的確に捉え、事業者がコロナ禍を乗り越えるための事業活動の継続や事業の回復、新たな事業の展開につなげられるよう、臨機応変に支援を図ってまいります。

アフターコロナを見据え、令和3年度に「コロナ期観光回復戦略」を策定いたしました。リーディング産業として重要性を増す観光産業の回復と、ニューノーマル時代の観光振興に向け取り組んでまいります。

情報通信技術が産業全体の重要なインフラといえる現代において、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする第四次産業革命と呼ばれる技術革新の恩恵を、幅広い産業分野が享受することは、コロナ禍からの経済回復を含め、今後の産業政策の大きな柱になるものと考えております。

